

第1回おかざき景観賞 表彰作品集 2014



■市民の意見



■一次審査（書類審査）



■二次審査（現地審査）

審査経過

■応募期間

平成 25 年 9 月 2 日～平成 25 年 10 月 11 日

■応募総数

創出景観部門 7 件
保全景観部門 4 件
景観まちづくり活動部門 9 件 計 20 件

■市民の意見

（東西南北の各地域交流センターにて、応募物件等の資料を展示し、市民の意見を募った）

平成 25 年 11 月 8 日～14 日

112 名より 262 件の意見

■一次審査（書類審査）

平成 25 年 11 月 18 日

■二次審査（現地審査）

平成 26 年 2 月 7 日

■岡崎市景観シンポジウムにて表彰式

平成 26 年 6 月 21 日

岡崎市景観審議会委員

| | |
|--------|---------------------|
| 瀬口 哲夫 | 名古屋市立大学名誉教授 |
| 小川 英明 | 愛知産業大学名誉教授 |
| 水津 功 | 愛知県立芸術大学准教授 |
| 長谷川 明子 | 1級ピオトープ計画管理士 |
| 杉野 丞 | 愛知工業大学教授 |
| 丹羽 誠次郎 | 愛知学泉大学家政学部教授 |
| 中根 克弘 | 中根克弘法律事務所弁護士 |
| 河江 喜久代 | 岡崎市動植物調査会 |
| 佐藤 繁子 | 社団法人愛知建築士会岡崎支部 |
| 柴田 芳孝 | 愛知県広告美術業協同組合 |
| 林 みずほ | 岡崎商工会議所 |
| 天野 裕 | NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた |
| 林 加代子 | 一般公募 |
| 新海 眞二 | 一般公募 |

（順不同／敬称略）

みんなの声

地域の文化・伝統を
地域住民が意識して
守っている点が
すごくよかったです

知らない場所が沢山
あることにびっくりした
少しずつ見学して回りたい
と思いました

自然に優しい建物
のように思えます

カッコいい建物
だと思いました

美しいものを増やす前に
良くないものを取り除く
というのはとても大事

古いものを大事に
したいです

地元を大切にする
気持ちに熱くなります

残したい景観です

まちのイメージアップ
に気を使われている
心意気に拍手です

編集・発行／平成 26 年 6 月
岡崎市都市整備部都市計画課
〒444-8601 岡崎市十王町二丁目 9 番地
TEL:0564-23-6263 FAX:0564-23-6514
E-mail:toshikei@city.okazaki.aichi.jp



第1回おかざき景観賞総評



岡崎市景観審議会会長
(名古屋市立大学名誉教授)

瀬口 哲夫
TETSUO SEGUCHI

- 自然や歴史を大切に、周囲となじむ景観づくりを -

岡崎市においては、昭和62年度から岡崎市景観環境賞が始められ、平成18年度まで、ほぼ隔年毎に10回にわたって実施された。昨年度から、これを引き継ぎ、おかざき景観賞が実施されることになった。今回のおかざき景観賞では、20件の応募であったが、その中で、特に印象に残ったのは、景観まちづくり活動の応募が多かったことである。

創出・保全景観部門の表彰は2点だが、まず、中心商業地の連尺町において改築された「正長刃物店」は、店舗にありがちな派手さがなく、まちなみにとけこんだ、センスの良い建築物として、評価が高かった。郊外の田園地帯にある「岡保育園」は、周囲の自然になじんだ平屋建ての建築物で、横方向に広がっており、のびやかな感じが好印象を与える建物である。いずれも景観賞にふさわしいものといえる。

景観まちづくり活動部門では、平成6年に会を結成し、ホテルの保護活動を行っている「鳥川（とっかわ）ホテルの里」、平成19年に会を結成し、山間部で自然保護の活動を行っている「北山湿地保護活動」、さらに、平成23年から松應寺（しょうおうじ）境内に残る文化的なまちなみを活用したまちづくりと空き家活用を行っている「松應寺横丁にぎわいプロジェクト」の活動の3点が表彰された。そっとして大切にしたいところ、市民に見て欲しいところ、活性化したいところと、それぞれが個性ある活動を行い、並行して、情報発信も行っているところなどが評価された。

景観づくりは、自然を大切にし、都市の歴史や記憶を大切にすることが重要である。その上で、シンボリックなもの以外の建築物は、周囲から突出することなく、周囲になじむことが必要条件であると考え。こうしたことを配慮した建築物や活動の応募が少なくなかったことは、頼もしいことである。

岡保育園

おかほいくえん



所在 岡町字大谷口7-1
所有者 社会福祉法人かなえ会
設計者 都市企画株式会社アトリエHOMMA
施工者 小原建設株式会社



創出景観

緩やかな起伏を描く田畑の広がる地形に建つこの保育園は、敷地北側から南西に向けて扇形に配された建物とその南側に広がる園舎から構成されている。緩勾配の屋根がかかる園舎は周囲に圧迫感を与えることなく、伸びやかである。また木目調の外壁と銀いぶし色の屋根という色彩計画によって、落ち着いた表情を持っているが、園児たちの元気に走り回る声により鮮明で生き生きとした色彩感を与えてくれるようである。ただ、東側に走る市道から見える外観はやや無表情であり、もう少し景観への配慮が欲しかったところである。

総じて、静かな基調でありつつ、しっかりした存在感をもつ空間は、西側の小高い丘や周囲の田畑と調和した、優しい景観を創出している。

(小川 英明)



正長刃物店

まさながはもてん



所在 連尺通1丁目7
所有者 竹内真治
設計者 アドバース設計
施工者 小原木材株式会社

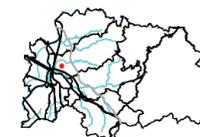


創出景観

旧岡崎城下の二十七曲りの街道沿いに老舗の刃物店がある。4代目店主が家業を継承し、時代の流れに抗し、生き残りを賭け、新たな時代を開くべく計画された建物が、新しい地域景観の形成のモデルになるものとして評価された。

この建物は中心市街地の交差点の角地に建ち、南面1階を店舗、東面2階を住居とし、一階は南東隅に店の入口を広く開け、白色を基調とした柱と壁面を東側へ連続させ、二階は刃物の質感をイメージさせる鋼板を用い、南面から東面にかけて黒色とし、白と黒による二層構成の一体感のあるデザインとしている。さらに、東面には横長のスリット状の開口部を設け、二階の中庭を開放し、人の生活と植栽を垣間見せたことで、街道の景観を一層豊かなものとしており、市街地域の活性化の起点となることが期待される。

(杉野 丞)



北山湿地保護活動

きたやましっちほこかつどう

景観まちづくり活動

足を踏み入れるのもためられるような湿地であったが、倒木を取り除き除草し、木道を整備し、長年維持管理に努めている。毎月の定期的な活動により、湿地固有の美しい草花や希少な動植物の姿を見ることができると自然保護の観点のみならず景観の面でも訪れる人々の目を癒してくれている。

また、四季折々の情報や活動の報告などを載せた「北山だより」を発行し、多くの方々に北山湿地のことを知ってもらう努力をしている点も評価したい。整備はもちろん自然保護の勉強会や自然観察会の開催による啓発、盗掘や違法捕獲の監視活動など多岐にわたる活動を行っており、この素晴らしい活動を次の世代につなげていっていただきたいと思う。

(河江 喜久代)



区域 池金町地内
団体名 おかざき湿地保護の会



鳥川ホテルの里

とっかわほたるのさと

景観まちづくり活動

ゲンジボタルの保護・保全活動を通じ、大人から子供まで同じ夢を追いかけ、ホテルを息させ続けるということを実現させ、景観をつくりだしていることに感銘した。この風景が岡崎市民の原風景として、いつまでも心に残り続けることで、故郷への愛着も生まれ、ゲンジボタルを通じて心が休まり、人々がつながる場となっていくことであろう。

ゲンジボタルが息をするにはきれいな水が必要であるが、一方でその水を汚しているのも市民である。鳥川の活動をきっかけに、都市の景観として、見た目の風景だけでなく、川の音、水の冷たさ、おいしい空気、鳥の鳴き声、新緑の香りなど、五感を目覚めさせる素敵な場所がまちに増えていくことを期待したい。

(長谷川 明子)



区域 鳥川町地内
団体名 鳥川ホテル保存会



松應寺横丁にぎわいプロジェクト

しょうおうじよこちょうにぎわいふるじえくと

景観まちづくり活動

建て替えもままならず周囲から取り残された風景、一般からの意見にあった「…たまたま迷い込んだことがあり…」という表現がびつたりの『松應寺横丁』の状況を魅力へと転化させる着想がユニークな取り組みである。「景観」を単なるまちなみとしてではなく、賑わいの創出も含め捉えている点や、地域の子もたちからお年寄りまで、さらには現代美術展の会場として世界へ発信するなどタテヨコにひろい繋がりをづくり出そうとしている点も評価できる。

この若いプロジェクトを今後いかに持続、発展させていくか、さらに進むであろう建物等の老朽化にどう対応していくか、そうした課題も推進力としてまちづくりに取り組まれることを期待したい。

(丹羽 誠次郎)



区域 松本町地内
団体名 松應寺横丁まちづくり協議会

